

# 令和5年度 荒尾市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和5年10月26日(木) 午後2時～午後3時50分

2. 場 所 荒尾市役所 市長公室

3. 出席者	荒尾市長	浅田 敏彦
	荒尾市教育長	浦部 眞
	荒尾市教育委員	旭田 國浩
	荒尾市教育委員	渡邊 義専
	荒尾市教育委員	深浦 淳美
	荒尾市教育委員	谷本 ひとみ
(オブザーバー)	副市長	田上 稔
(事務局職員)	総務部長	石川 陽一
	文化企画課長	宮脇 浩司
	総合政策課長	中山 創
	総合政策課政策推進室長	林田 真司
	総合政策課政策推進室	田村 政也
	子育て支援課保幼稚園係長	前田 恵子
	教育審議員兼学校教育課長	大塚 真史
	教育振興課長	満永 一
	学校教育課指導主事	池田 祐樹
	学校教育課指導主事	村上 弦大
	学校教育課指導主事	米村 光生
	生涯学習課長	原口 富美
	教育振興課教育政策係長	田中 彰

4. 傍聴者 無し

## 5. 議事

- (1) 「Only One の荒尾づくり・学校づくり」について～教育先進都市『あらお』の実現を目指して～
- (2) 子どもの居場所づくりについて
- (3) 教育施策全般に関する意見交換

## 6. 議事経過の概要

以下のとおり

### ○議事経過の概要

## 1. 開会

中山総合政策課長が、開会の宣言、配付資料の確認を行った。

## 2. 市長挨拶

浅田市長が、挨拶を行った。

### <挨拶要旨>

- ・日頃より教育行政へ尽力いただいている先生方へ感謝申し上げる。
- ・本会議は教育委員会と市長部局が教育政策について、同じ方向を向いて進んでいくための会議である。
- ・荒尾の教育行政が、子どもたちがふるさと荒尾に愛着を持ち、世界で活躍できるようなものになるよう、委員の皆様には忌憚のないご意見をお願いしたい。

## 3. 総合教育会議について

参考資料1に基づき、令和3年度策定した「荒尾市教育大綱・第2期荒尾市教育振興基本計画」の概要及び本市の人口ビジョンの進捗状況を確認した上で、本日の総合教育会議の役割について、林田政策推進室長が説明した。特に質疑等はなかった。

## 4. 議事

(1) 「Only One の荒尾づくり・学校づくり」について～教育先進都市『あらお』の実現を目指して～

資料1に基づき、荒尾市教育委員会が掲げる令和5年度の達成目標について説明を行った。その後、各委員へ荒尾市の教育現場について感じる良い点、課題点などについて意見を求めた。

### <主な意見等>

旭田委員

郷土の歴史や文化を学ぶ時間の確保は重要であり、「Only One の荒尾づくり・学校づくり」につながると考える。  
また、学校運営協議会を通して学校と地域が共通課題を認識しつつ、子どもたちとの交流を深めることで愛着に繋がると考える。全小中学校へのエアコン設置、全児童生徒へのタブレット配布は、国の施策の一步先を見据えたものと感じており、市長の教育行政への思いが伝わった。シンガポールへの訪問については、中学生の英語学習の意識向上につながる取組だと考える。

渡邊委員

良い点は学校と地域の距離が近いことだと考える。地域の方々から子供たちを大切にされており、多世代にわたって学校への関わりを続けている。また、学校の規模に応じて特色ある学校運営がされている。その他、給食費無料やタブレット端末などのICT環境の充実、昨年度実施された通学費用への助

成など、子育て世帯の親としては魅力的に感じる。

深浦委員

荒尾市教育大綱の基本理念である「郷土を愛し 未来を創る あらおの人づくり」から教育が年代関係なく生涯学習に重点を置いている点は良いことだと感じる。先日、働く女性の家で開催されたイベントで市民の方々の作品発表を見て健康で元気に学べる環境があると感じた。また、タブレット端末の貸与によりコロナ禍の中、ICTの力で対応できた。不登校などの児童生徒が自宅からの学習でも出席扱いになれば、学力低下防止とモチベーションの向上につながるのではないかと考える。

第三中学校における生徒発案の制服導入や、ハートフルルームの設置、特別支援教育など、子どもの居場所を大切にしつつ、多様性に合わせた教育が進められていると感じる。

谷本委員

コロナ禍におけるLTE対応タブレット端末の貸与は先を見据えた対応だった。ICT機器の整備により、進化型あらおベシックの推進に期待できる。また、ハートフルルームの設置要望に対する素早い対応により救われた児童生徒がいると考える。

荒尾市では学校長による特色ある学校づくりがされている。とある学校では運動会で校長自らがアンカーで走るなど、学校長の考えや行動が児童生徒に影響している。高校生による岱志塾、有明塾も特色ある事業である。

浦部教育長

岱志塾、有明塾においては、高校生が主体的に企画・運営に取り組んでいる。その他、荒尾市の教育環境の良い点について、市長のお考えを聞きたい。

浅田市長

荒尾の将来を担うのは子どもたちであり、郷土愛の醸成は重要と考える。今後も連携を深めながら、教育長と同じ方向を向いて進めていきたい。広報あらおでは、毎月、学校紹介のコーナーが掲載されており、名物先生も紹介もされている。「荒尾の教育が変わってきた」「荒尾で子育てをしたい」と市民の皆さんに思ってもらえるような事業を進めていきたい。

浦部教育長

その他、感じている課題点などはあるか。

渡邊委員

学力の差が広がっていると感じる。誰一人取り残すことなく学びを進めるためには、家庭での学習が大切と考える。格差解消のためにタブレットを活用して家庭学習に注力してはどうか。独自のドリル作成や民間の塾の力を借りても良い。地域の公民館は午後の使用頻度が低いため、学童等とは異なり事前申し込みが不要で子どもたちが自由に集える場所と

	して、地域と連携して活用してはいかがか。
深浦委員	成績優秀者は市外に進学してしまう傾向があり、学力を底上げし、小・中学校は是非荒尾市の学校に通ってほしい。昨年度は学校規模適正化について協議したが少子化が進むと学校の在り方が変わるため、自由な越境等も可能になれば良いと思う。また、先生方の労働環境の改善も必要。
谷本委員	教職員の働き方改革は必要。先日、玉名教育事務所との合同会議において教頭先生の定時帰宅を進めるような事例も紹介された。校長先生が定年後に現場に復帰するなど、働きたい意欲のある先生に活躍の場を提供できるような、今まで見られなかった働き方の検討も必要。また、タブレット端末は先生や学校と気軽に繋がるツールとして有効活用していただきたい。学校訪問において、学校ごとに活用具合の差が見られたので活用を進めてほしい。
旭田委員	先生の人材不足については、国や県でも検討を進めていると思うが、学校訪問の際に厳しい現状が見て取れた。
浅田市長	タブレット端末は全児童生徒が持ち帰っているのか。一人一人の習熟度に合わせた学習を進め、達成感を得られるようなタブレット端末の活用を期待したい。現在、そのような学習ソフトは入っているのか。
浦部教育長	学校や学級で取り扱いが異なっていたため、今年10月からは全ての児童生徒が持ち帰り、家庭学習に活用するよう指導した。
大塚審議員	一部の教科について学習ソフトが入っており、家庭での学習に使用している。
渡邊委員	荒尾市には各種スポーツの大会はあるが、計算や弁論大会といった勉強で活躍できる場があれば、学習意欲に結び付くと考える。
浅田市長	例えば ICT スキルの高い先生を他校に派遣することは可能か。初めに実績を作れた学校や先生のノウハウを共有すれば全体としては負担軽減にもつながるのではないか。
大塚審議員	研究指定校に指定した学校への見学や市内学校同士の研修会において情報交換は可能。また、ICT 支援員の派遣により他校の活用事例は共有している。
旭田委員	第四中学校では万田坑での校外学習、八幡小学校では野原八

	幡宮風流の笠づくりの様子を記録する際にタブレットを活用しており、良い事例だと思った。
浅田市長	緊急連絡ツールとしての活用は、費用負担もなく、タブレット端末の活用としては良い事例と考える。位置情報を利用した実証実験の進捗状況はどうなっているか。
大塚審議員	児童が保健室から教室へ戻った際の確認の手段等として活用。 実証実験は今年度2校で実施、来年度の早い時期に実装を行いたい。
浦部教育長	非常時の連絡・確認体制構築のためにもタブレット端末の活用を進めたい。

## (2) 子どもの居場所づくりについて

資料2に基づき、学校や家庭、地域などにおける子どもたちの居場所のあり方について、国や荒尾市の動向を踏まえながら、事務局から林田室長が説明を行った。

### <主な意見等>

浅田市長	先ほど渡邊委員より提案のあった公民館の活用は良いアイデアだと考える。
渡邊委員	かつては子ども会等が子ども同士で交流できる居場所となっていたが、現在はスマホの普及等により「居場所」が分かりづらくなった。
深浦委員	資料中の子育てに関する保護者の意見について、単に要望を聞くだけでなく、地域や家庭、職場の協力も必要と思われる。
谷本委員	要望の内容を見ると余裕がないように感じる。公民館を活用して高齢者にとっても子どもたちにとっても温かみのある空間にできれば良い。
浦部教育長	地域と学校をつなぐ寺子屋のような場所になることが期待される。
渡邊委員	旧荒尾三小の跡地のコンテナハウスでは、三世代の交流の場として行事をしている。公民館やその他既存の施設も活用できれば良い。現在の親世代は地域活動と距離を置く傾向にあるが、子どもたちが公民館などを利用すれば、子どもを介して地域との関わりが生まれることが期待できる。

旭田委員	公民館等の活用が困難な間は、既存の学童保育や放課後子ども教室を充実していけば良いと考える。
浅田市長	学童保育へのニーズが高まっており、長期休みの期間は特に申し込みが増える。既存の施設ではキャパが足りないが、容易に増設できるものでもないため、地域の協力が得られれば公民館の活用は魅力的。
渡邊委員	事前申し込みが不要で、自由に立ち寄れる場所が必要と思われる。
深浦委員	学童保育を希望する方は皆入所できているのか。
浅田市長	特に中央小学校や第一小学校の入所希望者が多く、時期的には夏休み期間の利用希望が多い。 保護者が勤める企業が 8 時始業の場合、送迎も間に合わない。理想は子育てを応援する機運が社会全体で高まり、企業側が子育て世代に合わせてもらえれば良いが簡単ではない。子どもの送迎の都合で退職するという声も聞く。
谷本委員	都会では幼稚園の園庭を開放している所もあり、場所によっては給食も出るとのこと。
浦部教育長	夏休みの期間は、一小の学童保育では小学校の空き教室を活用して受け入れている。渡邊委員のおっしゃった通り、公助だけでなく共助も必要と思われる。
旭田委員	昔は公民館でそろばん教室等が行われていた。民間による公民館の活用も検討できるのではないか。
渡邊委員	万田小学校の近くの公民館では民間の学習教室が開催されている。学校が近いため通いやすいと思われる。
浦部教育長	居場所づくりの先には、地元への愛着や定住にもつながるものと考ええる。
旭田委員	小学生の不登校児童が増えていると聞く。例えば勉強が不得意な児童も他の面で活躍できるような、子どもの特性に応じた学校での居場所をつくってもらいたい。
浦部教育長	教育委員会としてしっかり受け止めて検討したい。

### (3) 教育施策全般に関する意見交換

今回の議事以外の教育施策について、意見交換を行った。

<主な意見等>

谷本委員

新図書館が開館してから、よく自分の子どもと一緒に通っている。以前は読書の習慣もなかったが、図書館に通い出してから国語の成績が急激に伸びて驚いている。また、算数も寝る前の復習を始めてから成績が伸びたため、学習は習慣化と復習が大切だと感じている。タブレットの利用が21時までとなっているが、復習のための有効活用も検討しても良いかと思った。

田上副市長

事務局と議題について協議する中で、学校訪問などに尽力いただいている教育委員の皆さんの教育現場についてのご意見をお聞きしたいと考え、今回のテーマに決定した。次回からも是非皆さんからご意見をいただきたい。  
先日開催された住民懇談会では、どの地域でも後継者不足が大きな課題になっており、公民館活用のアイデアはその一助になるのではと感じたため、活用方法について検討したい。少子化が進む中、13校を維持していく方針を決定した際、学校選択制などの提言もいただいた。既存の枠組みの中で直面する課題に対して、子どもたちにとって一番望ましい教育環境を常に考えながら検討していく。少子化、人口減少、地域の活力低下といった本市が抱える問題に対して、子育て・教育支援や少子化対策をDXなど新しい手法を交えながら進めて、「暮らしたいまち日本一」を目指していきたいと考えている。今後も引き続きご意見・ご提言をいただきたい。

浅田市長

昨年から転出超過数が小さくなり、特にファミリー層の転入が増えている。今後も子育て世帯が増えれば人口減少にも歯止めがかかると期待されるが、その基盤として教育環境は重要になってくる。あらお海陽スマートタウンの開発などを進め、荒尾市がリターンなどの転出先の候補に挙がるように、人口減少の抑制に注力したい。今後も、子どもたちが人とのつながりや愛着を持ち続けてもらえるような、魅力あるまちづくりを進めていく。

5. 閉会

中山総合政策課長が、閉会の宣言をした。